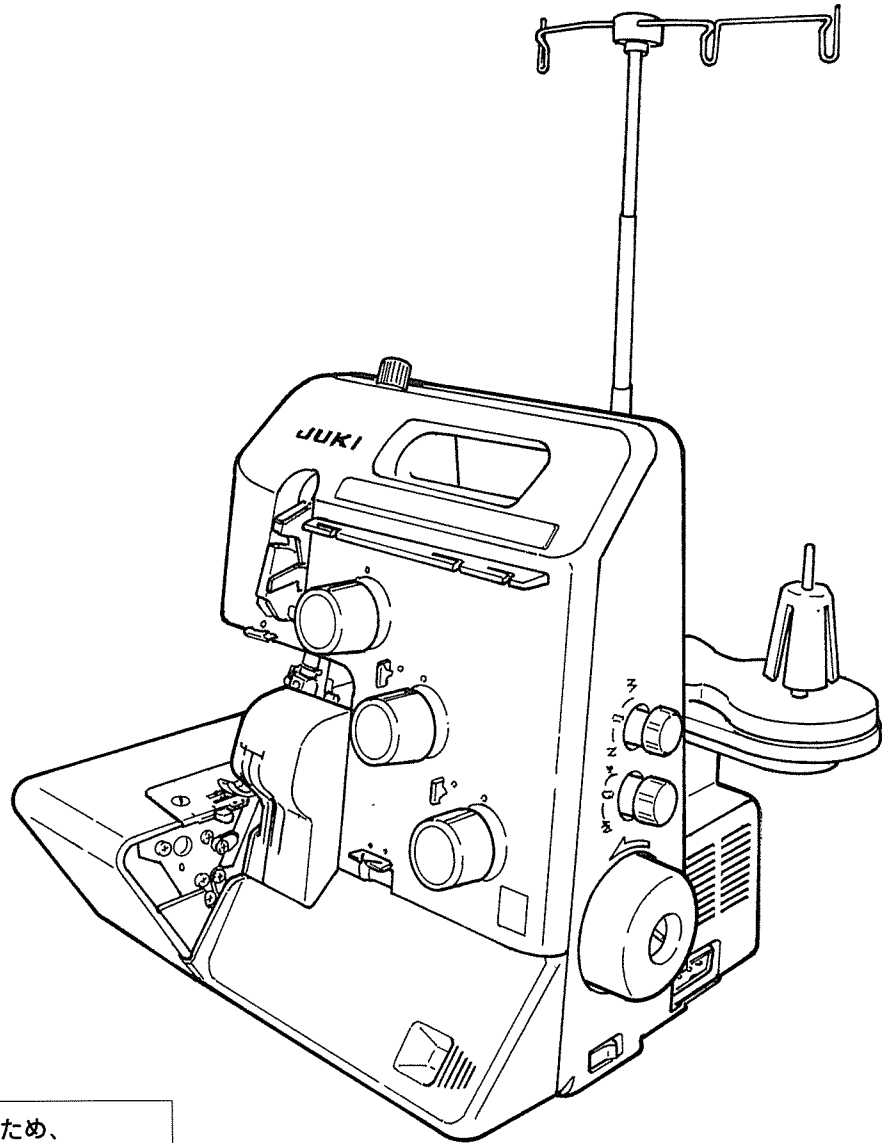


JUKI

1本針・3本糸（差動調節付き）オーバーロックミシン

MO-03D

取扱説明書



注意

安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げまことにありがとうございます。
このロックミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくために
どうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。

もくじ


安全にご使用していただくために	1	送り調節	9
各部の名称・付属品	2	下メス位置調節	9
糸立装置の組付け方	3	ステッチ各目盛の目安	9
ロック用、大型糸巻き糸、家庭用糸ゴマの場合		差動調節・ギャザーの寄せ方	10
動かす前の準備	3	縫い始め・縫い終りの糸の始末	11
コントローラーの取り付け方、電源/ランプスイッチ		巻き縫い	12
各部の操作とはたらき	3~5	飾り縫いの縫い方	12
押え上げレバー、押えの交換、上メスの解除		テープ付け	13
押えの印について、はずみ車について		縫っている途中で糸が切れたとき	13
ルーパーカバーの開閉について、布台の開閉について		縫い目のほどこき方	13
縫い代のガイド線について、押え圧調節つまみ、針の交換		上メス、下メスの交換	13
布地・糸・針の関係、針の種類、針の確認、針の調べ方		ランプの交換	13
糸のかけ方	6,7	掃除と注油	13
上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸		別売付属品	14
ためし縫い、正しい縫い目	8	仕様表	14
糸調子の調整	8	サービスをお申しつけになる前に	裏表紙
糸調子ダイヤルの合わせ方	8		

安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。

FOR USE IN JAPAN ONLY

 この表示は
禁止マークです。

警告 このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

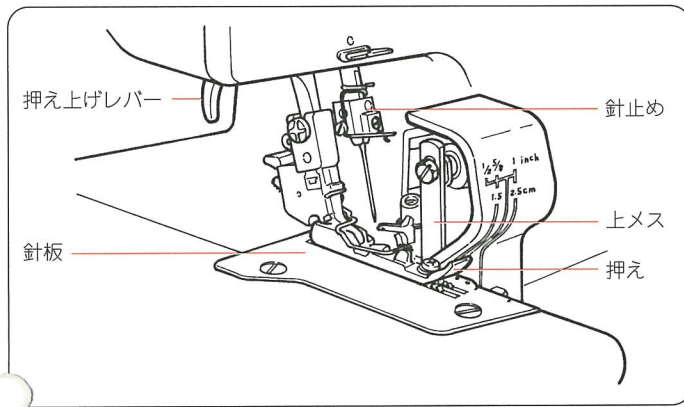
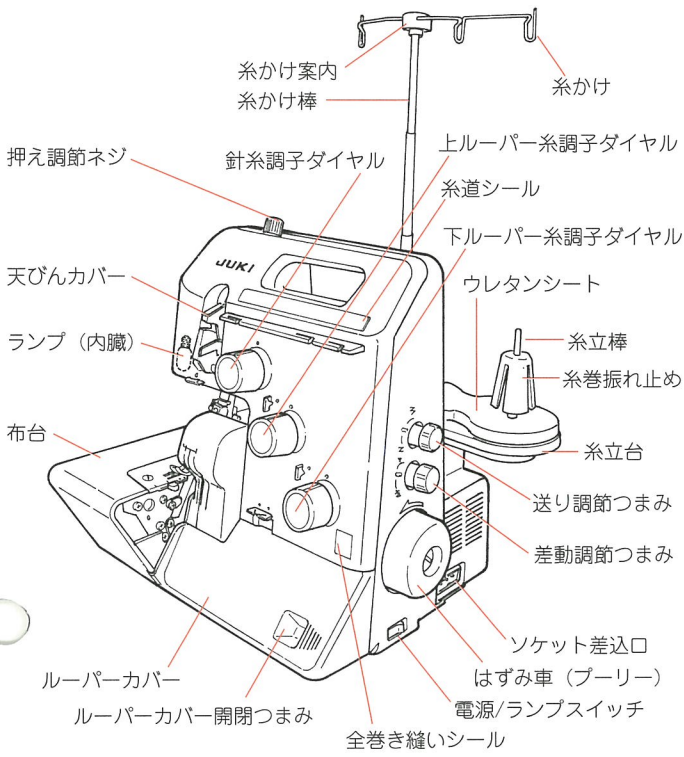
- 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
- 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - ミシンのそばを離れるとき。
 - ミシンをご使用になったあと。
 - ミシンのご使用中に停電したとき。

注意 このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

- コントローラーの上に物をのせないでください。
- お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
- ミシンを操作するときはルーパーカバー、布台カバーなどカバー類を閉じてください。
- ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、メス、ルーパー、はずみ車、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
- 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
- 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。

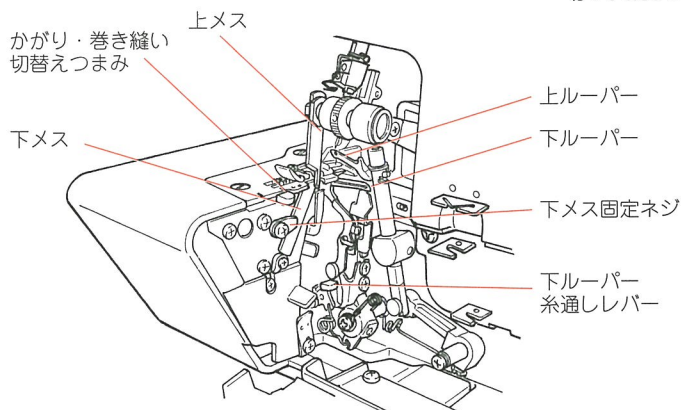
- お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。
- 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 針糸、ルーパー糸をセットするとき。
 - ランプを交換するとき。
- 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
- 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
- ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
- ミシン油について
 - 炎症、かぶれを防ぐため、目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
 - 下痢、嘔吐を防ぐため、誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
 - 子供の手の届かないところに置いてください。
 - 油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

各部の名称／付属品



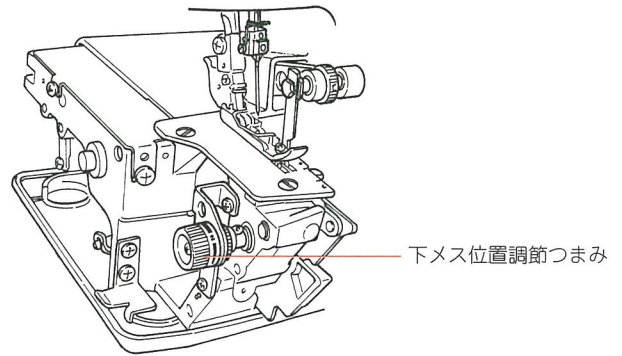
■ルーパーカバーを開けたところ

注意 ルーパーカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

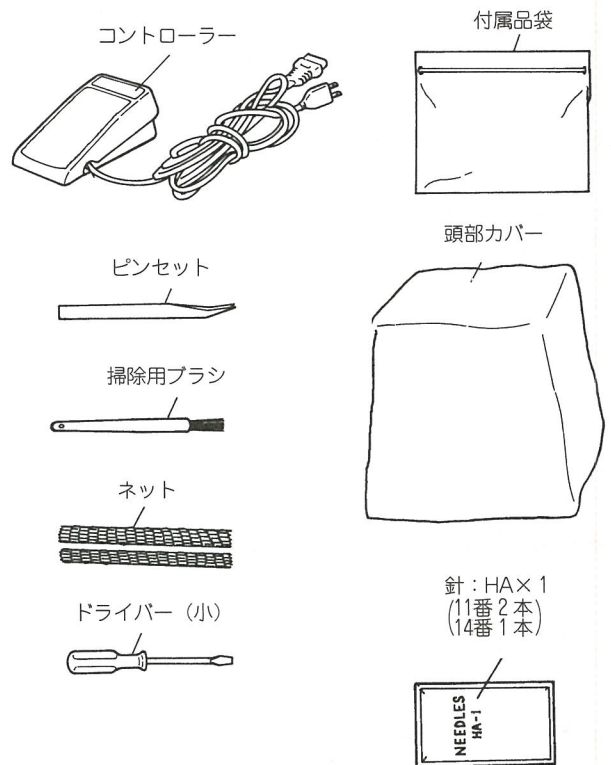


■布台を開けたところ

注意 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。



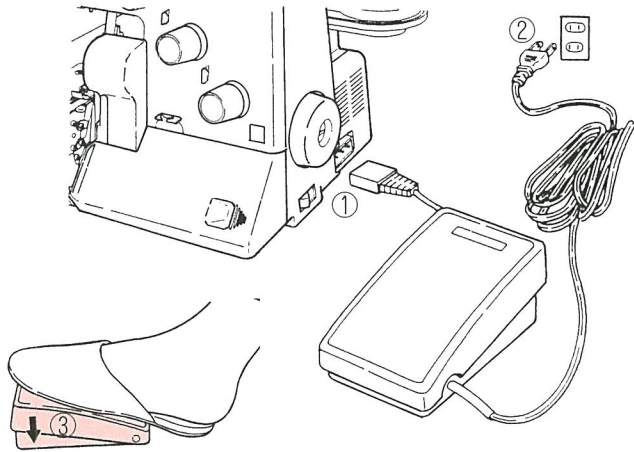
■付属品



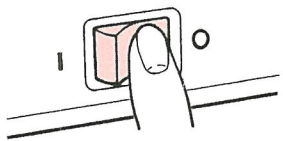
動かす前の準備・各部の操作とはたらき

■コントローラーを取り付けます

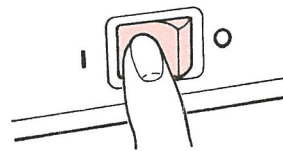
- ①コントローラーをソケット差し込み口に差し込みます。
- ②プラグを室内コンセントに差し込みます。
- ③コントローラーの上に足をのせます。
コントローラーを強く（深く）踏むと速くなり、
弱く（浅く）踏むと遅くなります。



■電源/ランプスイッチについて



0側を押すと電源が切れます。



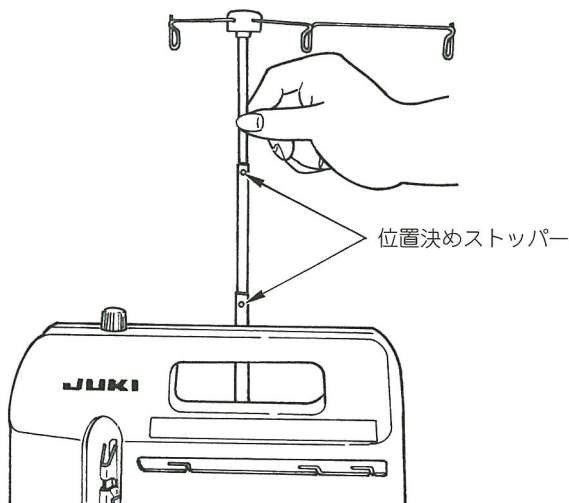
I側を押すと電源が入ります。
ランプもつきます。

注意 ミシンをお使いにならないときは
下記のことを行ってください。

1. 電源スイッチを0（切る）にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

■糸かけ棒をのばします

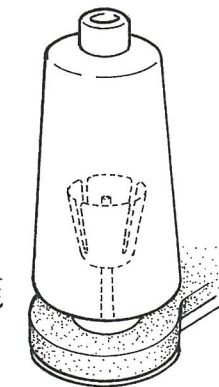
「カチッ」と音がして、位置決めストッパーにかみあうまで回します。



■ロック用糸の場合



■大型糸巻き糸の場合



■家庭用糸ゴマの場合



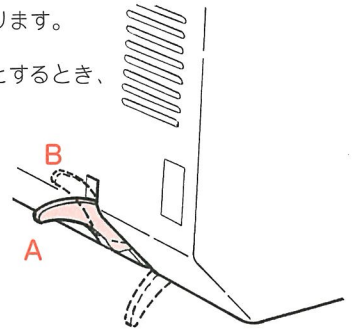
糸巻き振れ止め
内径の大きい糸巻き糸は糸巻き振れ止めを逆さにします。

糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座（別売）の凸部を上差し込みます。

■押え上げレバーについて

（押え上げレバーにより押えを上げます）

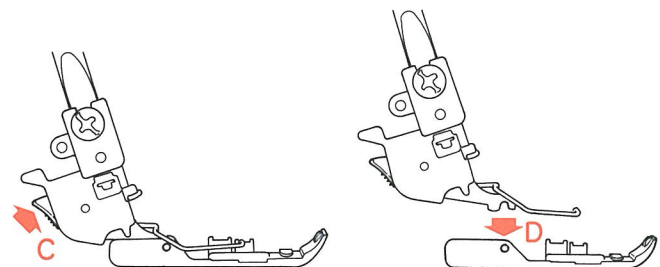
- A. 通常の場合、A位置まで上がります。
- B. 押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするとき、B位置まで上げます。



■押えの交換

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

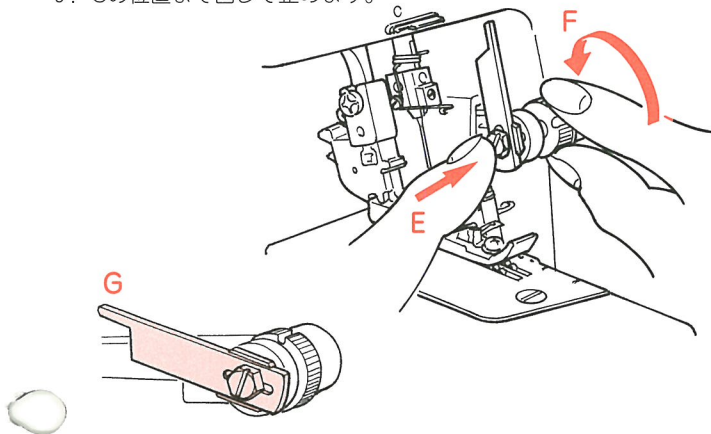
1. 押えを上げます。
2. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
3. C部を押すと押えがはずれます。
4. 押えをとりつける場合は、押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(D)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。



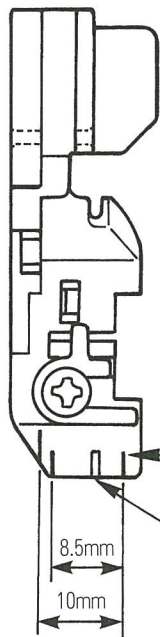
■上メスの解除

▲注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回し、メスが一番上になる位置で止めて、ルーパーカバーを開けます。
2. E部を右いっぱいまで押しながら、中央 (F) のつまみを矢印の方向に回します。
3. Gの位置まで回して止めます。



■押えの印について



布地を押えの下へ入れるとき、押えの印をガイドとして使います。

メス位置 (下メス調節つまみ目盛「2」のとき布地のカット位置です。

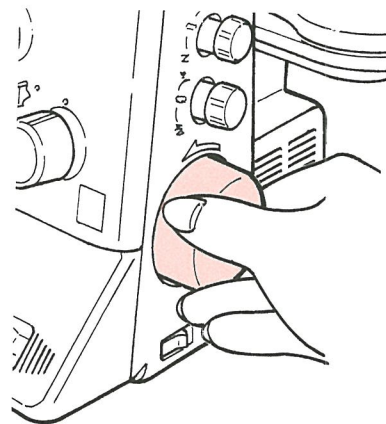
針位置

8.5mm

10mm

■はずみ車 (プーリー) について

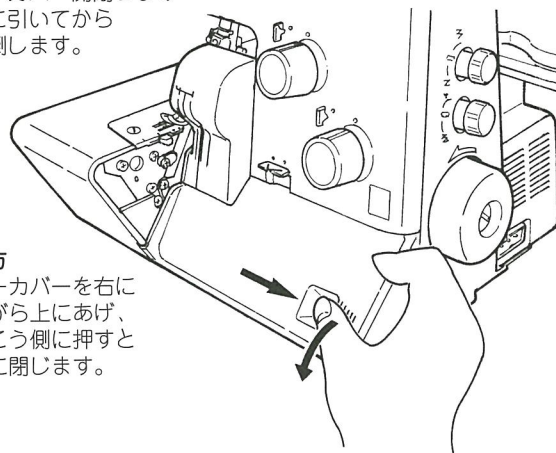
はずみ車は手前に回します。
※糸を通したあと、縫い始め、縫い終りなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。



■ルーパーカバーの開閉について

▲注意 ルーパーカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

・開け方
ルーパーカバー開閉つまみを右側に引いてから手前に倒します。



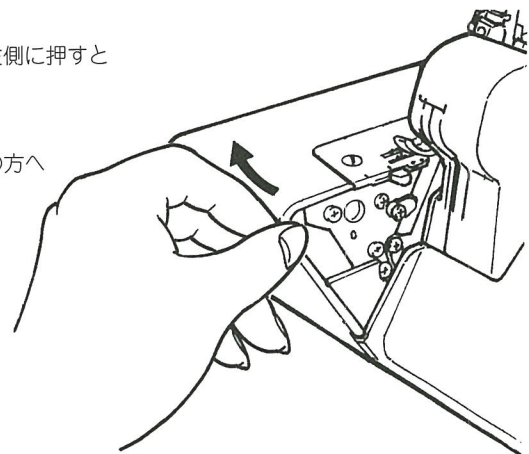
・閉じ方
ルーパーカバーを右に引きながら上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。

■布台の開閉について

▲注意 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

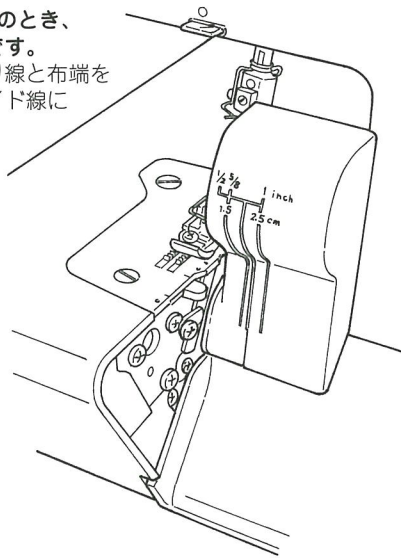
・開け方
布台の手前を左側に押すと開きます。

・閉じ方
布台をミシンの方へ押します。



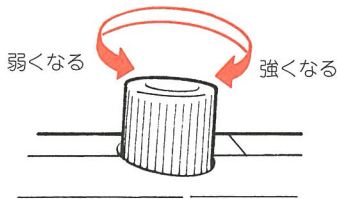
縫い代のガイド線について

下メス調節つまみ目盛「1」のとき、針からの縫い代のガイド線です。布地を裁断するとき、仕上り線と布端を一定の幅に決め、布端をガイド線に合わせて使います。



押え圧調節つまみ

押え圧の標準は押え調節ネジの下端と前面カバーの上端が一致したところ。特殊な布地以外は、調整する必要はありません。

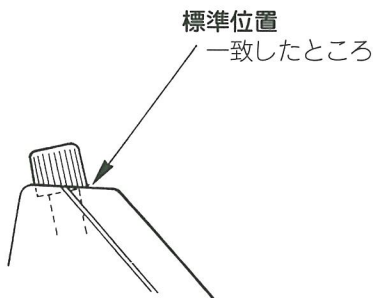


●強くする場合：

デニム、ツイード、堅いリンネルなど厚手の布地

●弱くする場合：

ジョーゼット、ローン、トリコットなど薄手の布地



針の交換のときは

注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回し、針を一番上まであげます。
2. 押えを下げます。
3. 掃除用ブラシの反対側の針穴に針をさし込みます。(A)
4. ドライバー(小)を使い、針止めネジをゆるめて針をはずします。
4. 掃除用ブラシの針穴に新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れ、針とつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。

※使用針は家庭用ミシン針HA×1の11番又は14番です。



※掃除ブラシの後側が針交換の道具として使えます。

針の種類

この小型ロックミシンの針は家庭用ミシン針を使います。

針の種類	針の太さ	用途
HA×1	11番	標準(薄物・普通物)用
	14番	厚物用(段部で目飛びが発生してしまったときには#14をお使いください。)

※お買い求めの際は、このタイプの針をご指定ください。
 ※ご購入時のミシンには、11番の針が取付けてあります。
 ※HA×1SP針もお使いになれます。

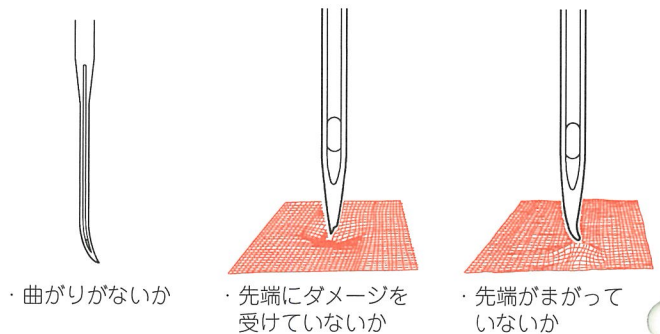
布地・糸・針の関係

・かがり縫い、合わせかがり縫いの目安です。

布地の種類	糸の種類	ミシン針
薄地 ジョーゼット、ローン、トリコット	スパン糸 80番~90番	HA×1 11番
普通地 ポプリン、ギンガムブロード、ギャバジンメリヤス	スパン糸 60番~90番 フィラメント糸(テトロン) 50番~80番	HA×1 11番~14番
厚地 デニム、ツイード、ジャージー	スパン糸 60番 フィラメント糸(テトロン) 60番	HA×1 14番

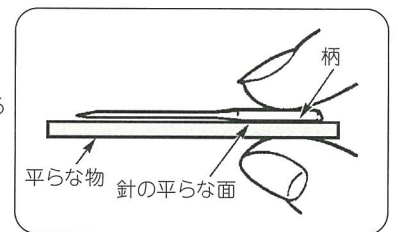
針の確認

針については、下記を確認してください。



針の調べ方

すき間が針先まで平均に見えるのがよい針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないでください。



糸のかけ方

美しい縫い目をつくるには…
正しい糸かけ順序で糸を通してください。
糸かけ順序を間違えると縫えません。

■準備

▲注意 糸かけ、糸通しのときは
電源スイッチを切ってください。

1. 糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
2. ルーパーカバーと布台をあけます。
3. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
4. 上メスを解除します。
5. 押えを上げます。

■糸かけ順序

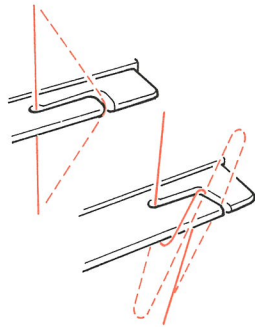
糸かけ順序を明確にするために、糸かけ図と色表示がついています。
糸かけ手順は下記の順序で行います。

- 最初に、上ルーパー糸（青色印）
2番目に、下ルーパー糸（赤色印）
3番目に、針糸（緑色印）

糸かけ、糸通しには付属されているピンセットを使うと便利です。

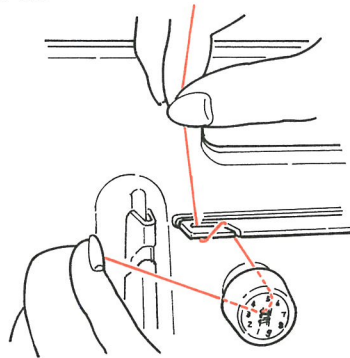
■糸案内板の糸かけ

1. 糸案内板のすき間に糸を入れ、左側に引きます。
2. 糸案内板の下から出た糸を下から上にもって行き、再び糸案内板のすき間に入れて下方に引きます。

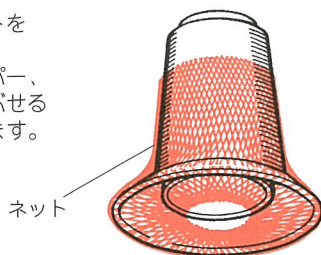


■糸調子ダイヤルの糸かけ

糸を糸調子皿に正しく入れるために
両手で軽く糸を引きます。

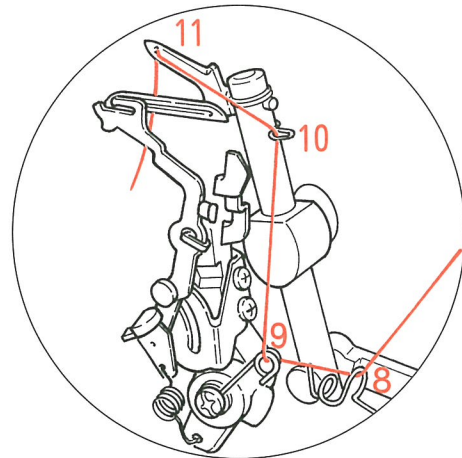
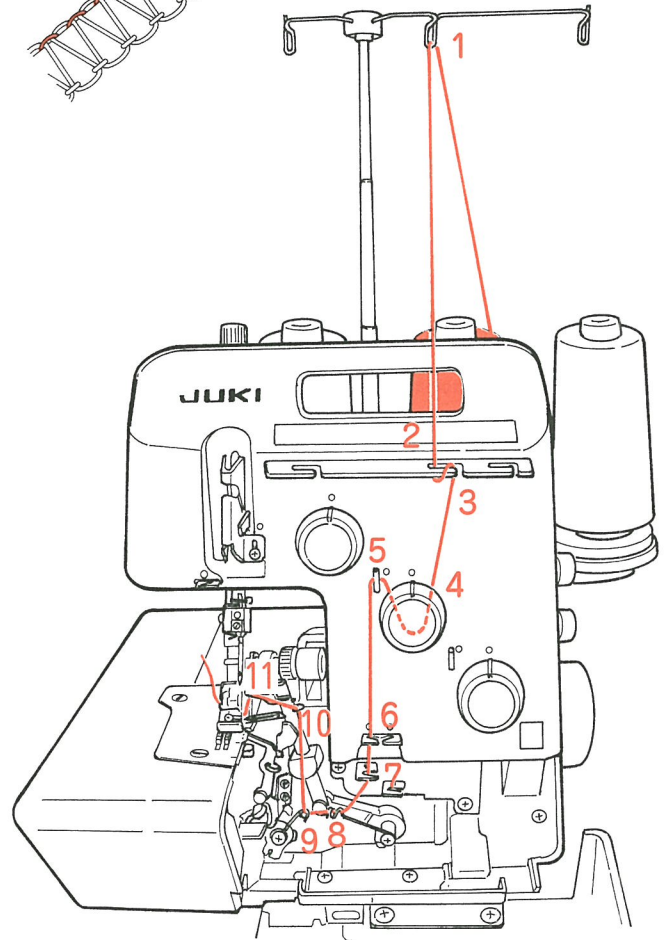
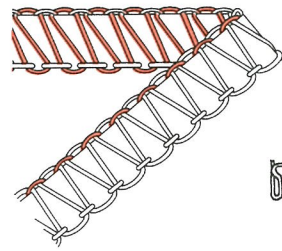


よりの強い糸にはネットを
ご使用ください。
付属のネットを上ルーパー、
下ルーパーの糸駒にかぶせる
と糸があばれなくなります。



糸かけ順序（1）

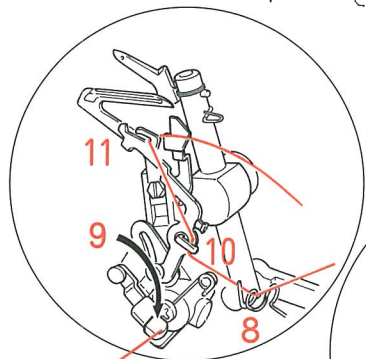
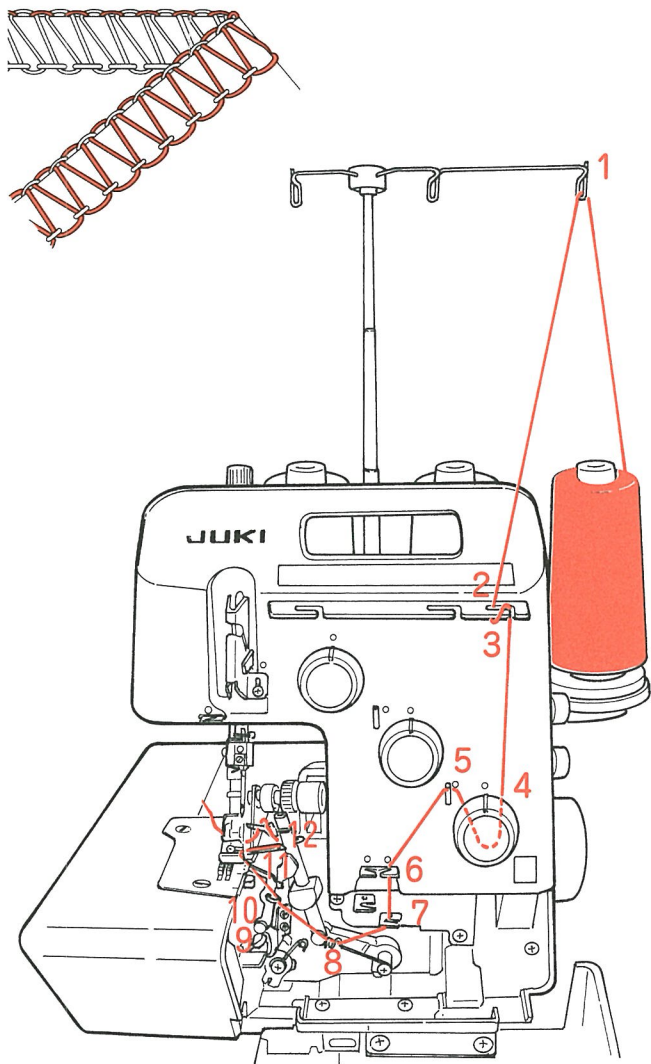
1番目の糸かけ 上ルーパー糸（青印）



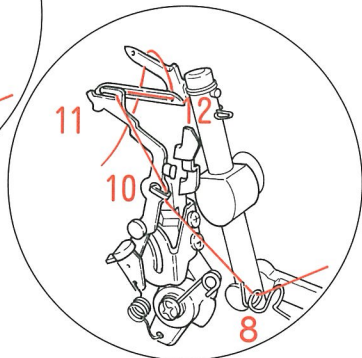
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2、3) 糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルにかけます。
- (5、6、7、8、9、10) 糸案内にかけます。
- (11) はずみ車を回し、上ルーパーが上にくる位置で糸を通します。
- (12) 糸の先端を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序 (2)

2番目の糸かけ 下ルーパー糸 (赤印)



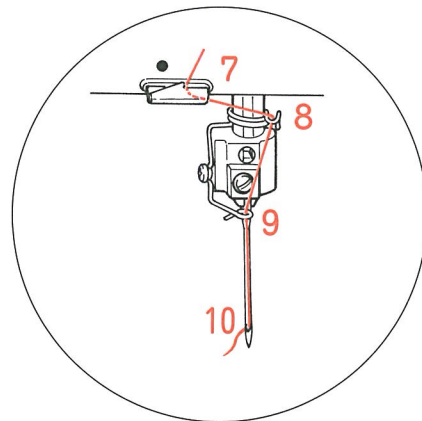
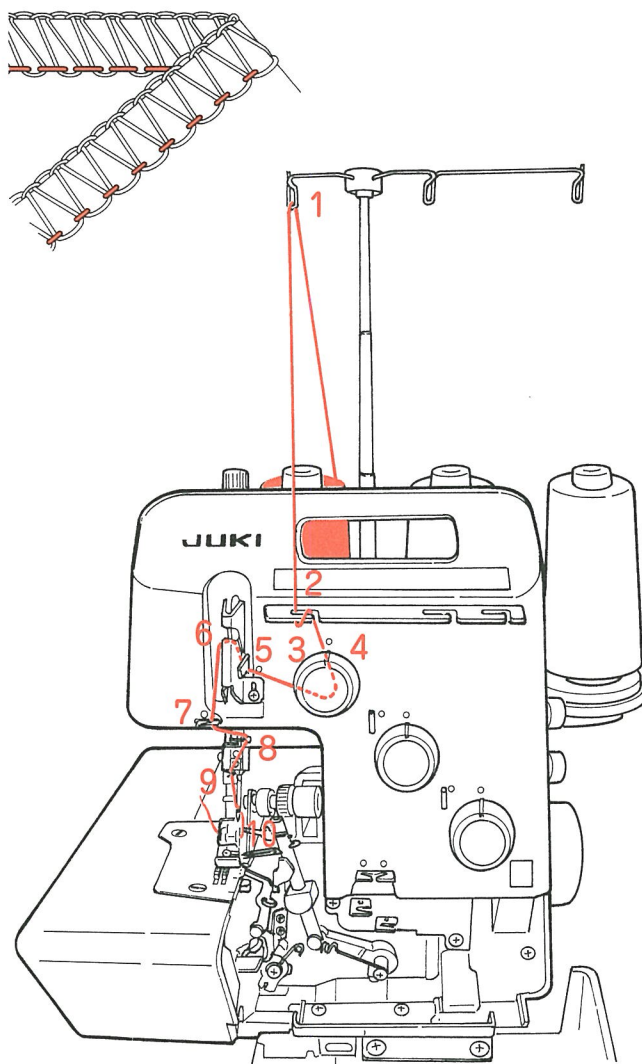
糸通しレバー



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2, 3) 糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルにかけます。
- (5, 6, 7, 8) 糸案内にかけます。
- (9) 糸通しレバーを下げます。
- (10, 11) 糸案内にかけます。
- (12) 下ルーパー穴に糸を通し、後ろへ約10cm出します。
- (13) はずみ車を手前に回すと、糸通しレバーは元に戻ります。
(糸通しレバーは手でも戻せます)
- (14) 引き出した糸を、上ルーパーの上方から下へもっていき押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序 (3)

3番目の糸かけ 針糸 (緑印)



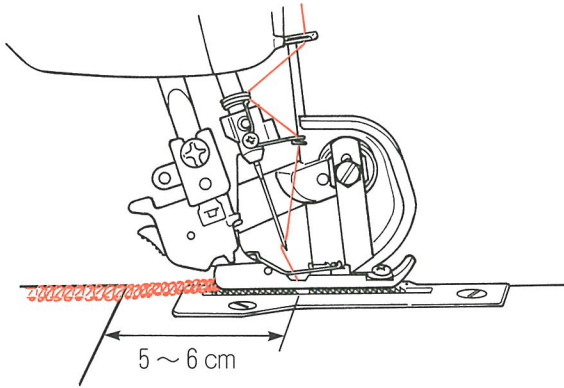
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2, 3) 糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルにかけます。
- (5) 糸案内に下からかけます。
- (6) 天びんカバーの中央にかけます。
- (7) 糸案内にかけます。
- (8, 9) 針棒糸案内にかけます。
- (10) はずみ車を回し、針が最上にくる位置で、針穴に糸を通します。
糸を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

糸通しが終わったら、上メスを下げ、ルーパーカバーと布台を閉じます。

ためし縫い・正しい縫い目

■糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう。
二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

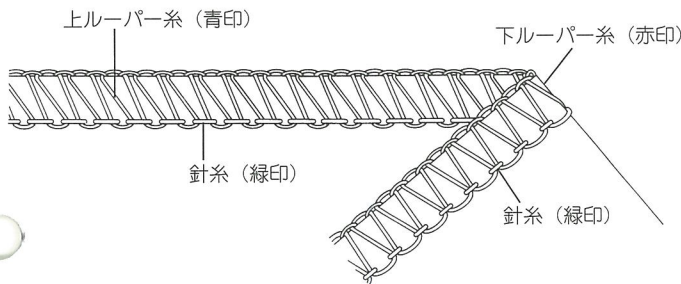
1. 全ての糸調子ダイヤルの目盛を「4」に合わせます。
2. 上メスが下がっているかを確認します。(布の切断位置)
3. 押えを上げます。
4. 押えの下に布地をおきます。
5. 押えを下げて縫います。
6. 縫い終わったら、5~6cm空環を出します。



※空環からかんとは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです。
※糸調子ダイヤルの目盛は布地や糸の種類により変化します。

■正しい縫い目

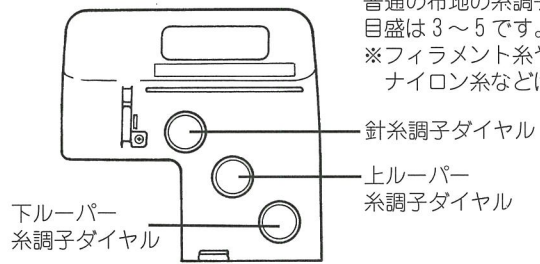
きれいな縫い目のときは、上下ルーパーの結節が布の端に揃っています。
針糸の縫い目もまっすぐに見えます。



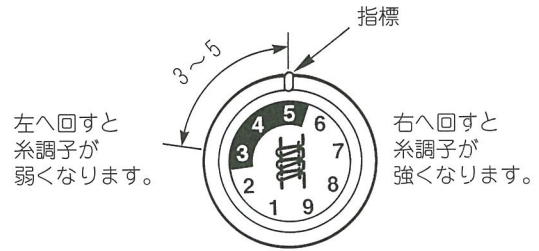
糸調子の調整

■糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛 (1~9) を調節するだけで修正できます。



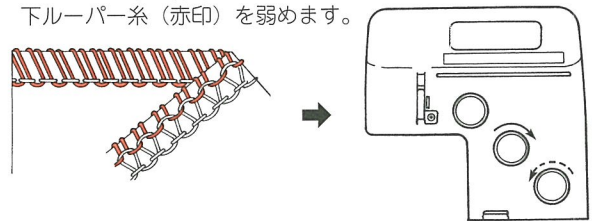
普通の布地の糸調子ダイヤルの目盛は3~5です。
※フィラメント糸やウイリーナイロン糸などは変化します。



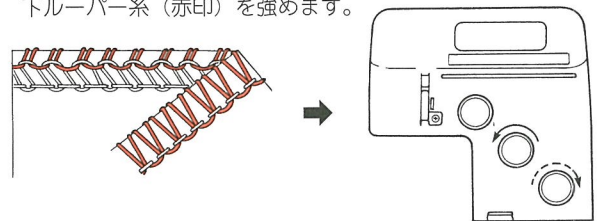
■糸調子の調整の仕方

糸調子ダイヤルは1目盛か半目盛ずつ回し、ためし縫いをしながら調節します。

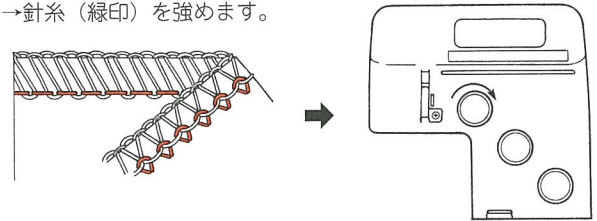
- 上ルーパー糸が布地の裏側に出る場合
→上ルーパー糸 (青印) を強めるか下ルーパー糸 (赤印) を弱めます。



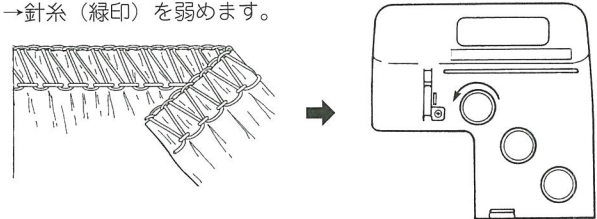
- 下ルーパー糸が布地の表側に出る場合
→上ルーパー糸 (青印) を弱めるか下ルーパー糸 (赤印) を強めます。



- 針糸が布裏でループ状になる場合
→針糸 (緑印) を強めます。



- 布地にシワが出る場合
→針糸 (緑印) を弱めます。

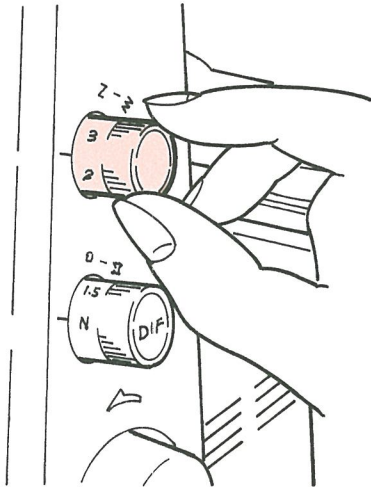


送り調節

■送り調節つまみ（縫い目の長さ調節）

縫い中でも「1～4」の範囲で調節できます。

- 普通の縁かがりは「2.5」が標準です。
- 全巻き縫い、細ロック縫いは「1～1.5」が最適です。
- ブラインドステッチ（まつり縫い）は「4」にします。

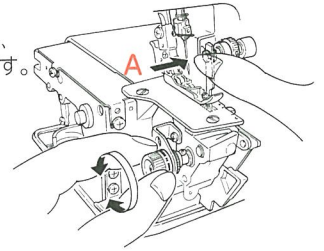


下メス調節

■下メス位置調節つまみ（かがり幅と布端カット位置の調節）

注意 下メス位置調節のときは、電源スイッチを切ってください。

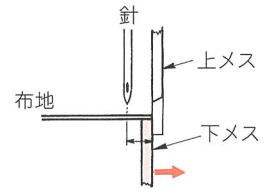
縫い目の端まで布地がとどかないとき、余りすぎてカールするときに調節します。



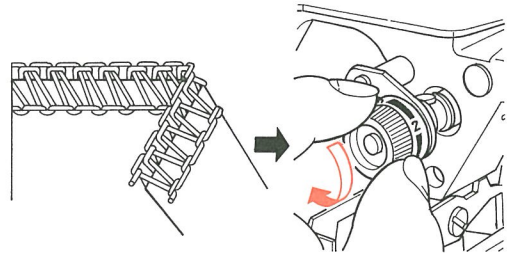
上メスを解除するか、A部を押しながら下メス位置調節を回します。

布端カット位置の調節

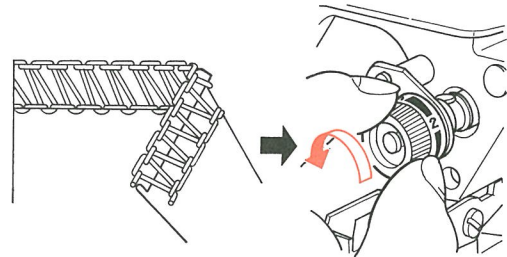
下メス位置調節つまみ目盛	1	2	3
針と布カット幅	3 mm	4 mm	5 mm



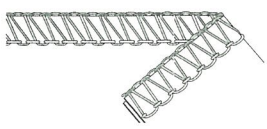
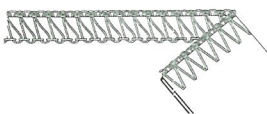
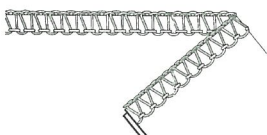
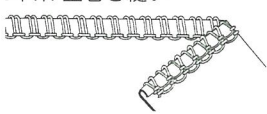
- 縫い目に布端がとどかない。（縫い目の中で布端にすき間がある）
→つまみの目盛を大きくします。



- 縫い目に布端が飛び出しているか、カールしている。
→つまみの目盛を小さくします。



■ステッチの各目盛の目安

ステッチ仕様	糸調子ダイヤルの目盛り	各調節つまみ
3本糸合わせ縁かがり縫い 	針糸調子：3～5 上ルーパー糸調子：3～5 下ルーパー糸調子：3～5	送り調節：2.5 下メス調節：1～2.5 差動調節：ニット地 N～2 織布 N～0.7
3本糸飾り縫い 	針糸調子：1～3 上ルーパー糸調子：1～5 下ルーパー糸調子：4～8	送り調節：2～2.5 下メス調節：1～2.5 差動調節：N
3本糸細ロック縫い 	針糸調子：2～6 上ルーパー糸調子：4～8 下ルーパー糸調子：2～5	送り調節：1～1.5 下メス調節：1～2 差動調節：N～0.7
3本糸全巻き縫い 	針糸調子：3～5 上ルーパー糸調子：3～5 下ルーパー糸調子：5～8	送り調節：1～1.5 下メス調節：1～2 差動調節：N～0.7

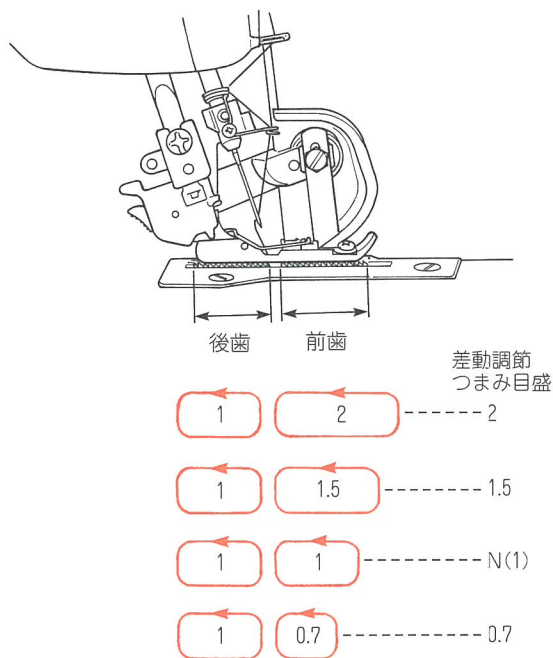
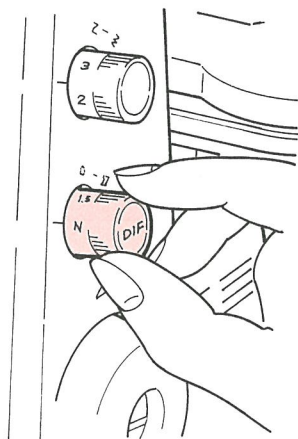
差動調節・ギャザーの寄せ方

■差動調節つまみ

縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は差動調節つまみを使うと、平らに美しく仕上がります。

※この差動調節を応用して、一枚の布地にギャザー寄せ（下記参照）ができます。

- 送り歯の前歯と後歯の動きの速さを变化させることにより調節ができます。

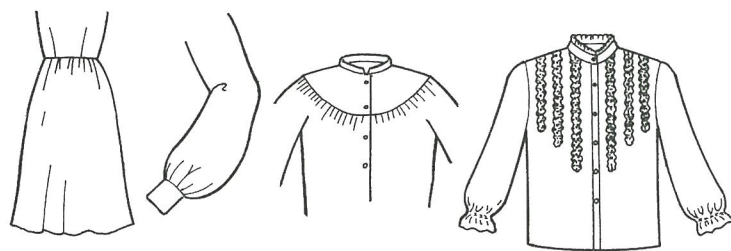


	縫い伸びしやすい布地			縫いちぢみしやすい布地	
布地	厚地ニット地 厚地ジャージー その他伸びる布地	中厚ニット地 メリヤス ジャージー	織布	ジョーゼット リネン、サテン ローン	
差動つまみ目盛	N → 1.5~2	N → 1.5	N (差動なし)	N → 0.7	
差動調節有無の縫い目					

■ギャザーの寄せ方

薄地、普通地の一枚の布地にギャザー寄せができます。

[例] スリーブヘッド、裾、ヨーク、レース、フリルなど



1. 差動調節つまみの目盛を「2」に合わせます。
2. 送り調節つまみの目盛を「4」に合わせます。

ギャザー寄せ



※極端にギャザーを寄せるときは縫い上がって針糸を指で引張ります。
※ギャザー終了後は、差動調節つまみを「N」に戻します。

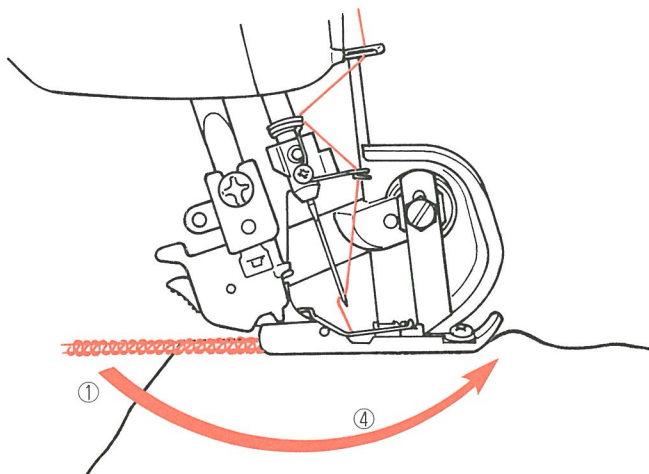
縫い始め、縫い終りの糸の始末

ロックミシンの場合、縫い始めと、終りの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。縫い目を閉じてください。

1. ロックミシンでの始末

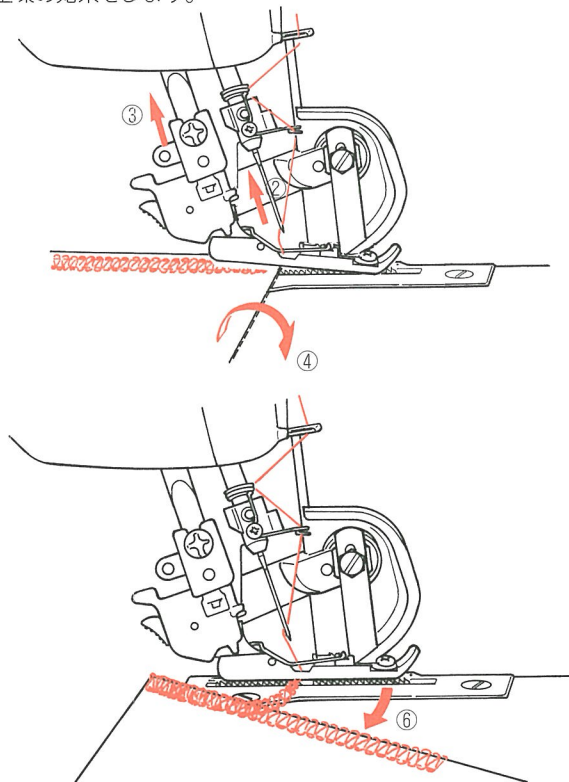
1) 縫い始めの糸の始末

- ①縫い始めの空環を3～4cm出します。
- ②布地を2～3針縫います。
- ③針を下げて、押えを上げます。
- ④空環を伸ばして、押えと布地の間に左側から入れます。
- ⑤押えを下げて、空環の上から縫います。
※空環の上を縫わない場合は、縫い始めと縫い終わりは空環を長くします。そして空環を結んだり、トジ針で縫い目の中に入れることもできます。
※縫い目が互いにクロスした場合、空環は自動的に閉じられます。



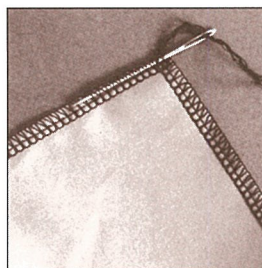
2) 縫い終りの糸の始末

- ①布地の終りで針を止めます。
- ②針を上げます。
- ③押えを上げます。
- ④布地を裏返して、かがり幅に合わせて針を落します。
- ⑤押えを下げます。
- ⑥今まで縫ったところが上メスに当たらないように2～3cm縫い進み、布地をはずします。
- ⑦空環の始末をします。



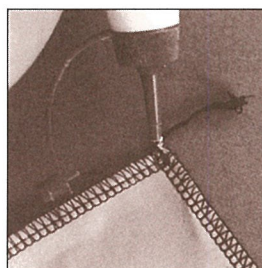
2. トジ針を使う始末:

縫い始め、終りの空環を2～3cm残し、トジ針で縫い目の中に入れる方法です。



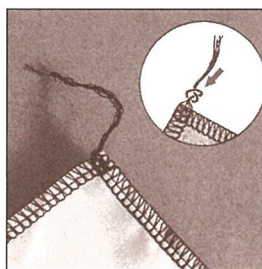
3. 手芸ボンドでの始末:

布上の空環の根元に手芸用ボンドを少しつけて乾燥してから余分な空環を落します。



4. 糸を結ぶ方法:

すべての糸を2本にまとめて結び、結び目を布上ぎりぎりまでの位置にします。そして余分な糸を落します。



巻き縫い・飾り縫いの縫い方

■巻き縫いについて

このミシンには巻き縫い装置が内蔵されていますので、全巻き縫いと細ロック縫いができます。裾や袖口など布端を自動的に巻き込みながら細く美しいかがりができます。

■縁かがり縫いと巻き縫いの切替え

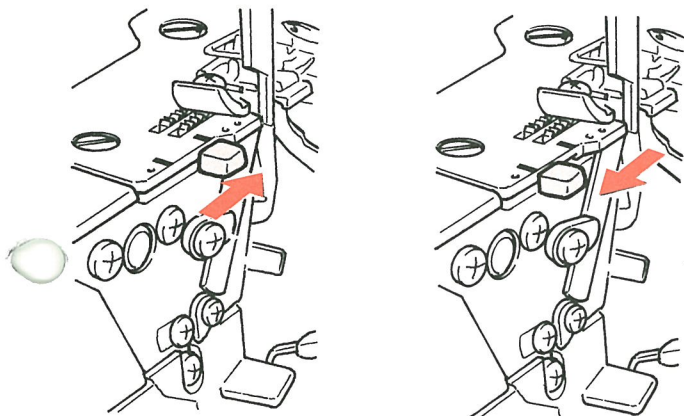
※はずみ車を回し、針を一番下にします。

・普通のかがり縫いの場合：

かがり幅切替つまみを向う側に押し針板の後ろ側の刻線に合わせます。

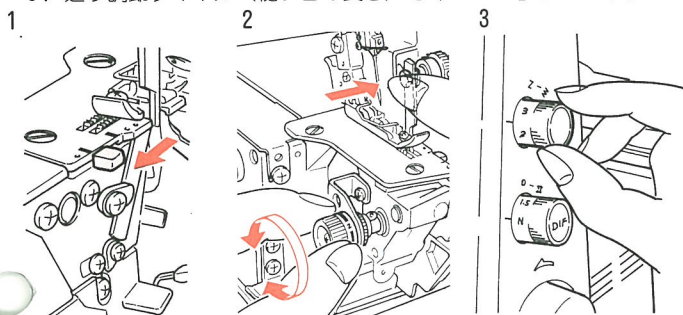
・巻き縫いの場合：

かがり幅切替つまみを手前に引き針板の手前の刻線に合わせます。



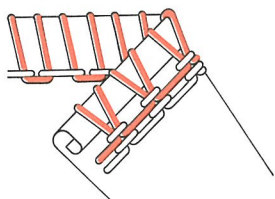
巻き縫いの準備

1. かがり幅切替つまみを手前に引き、針板の手前の刻線に合わせます。
2. 下メス位置調節つまみの目盛を「1」に合わせます。
3. 送り調節ダイヤル（縫い目の長さ）を「1～1.5」にします。



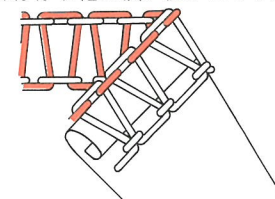
・全巻き縫い

全巻き縫いは上ルーパー糸で布端をくるむ縫い目です。



・細ロック縫い

ロック縫いは普通のかがり縫いのかがり幅の狭い縫い目です。



■巻き縫い(全巻き、細ロック)の糸調子の目安表

※糸調子は下記の目安表を参考にしてください。

- ・布地や糸の種類によって多少異なります。
- ・巻き縫いに使用するスパン糸は#90までの細い糸を使ってください。
- ・ウーリーナイロン糸は上ルーパー糸だけに使ってください。

全巻き縫いの場合			
糸調子ダイヤル目盛	針糸調子ダイヤル	上ルーパー糸調子ダイヤル	下ルーパー糸調子ダイヤル
使用糸			
スパン糸#90	3～5	3～5	6～8
フィラメント糸#80	3～5	3～5	6～8
ウーリーナイロン糸(上ルーパー糸)	—	2～4	—

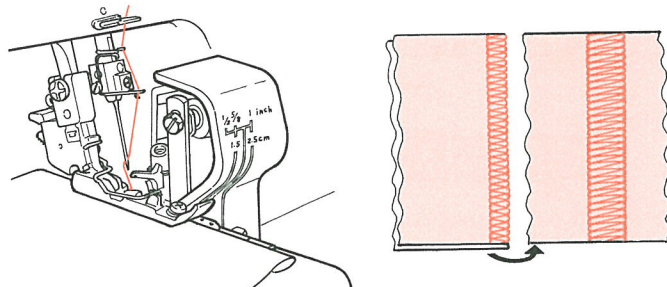
細ロック縫いの場合			
糸調子ダイヤル目盛	針糸調子ダイヤル	上ルーパー糸調子ダイヤル	下ルーパー糸調子ダイヤル
使用糸			
スパン糸#90	3～5	4～6	3～5
フィラメント糸#80	3～5	3～5	3～5
ウーリーナイロン糸(上ルーパー糸)	—	3～5	—

■飾り縫いの縫い方

1. 上メスを解除します。
2. 上ルーパー糸を飾り糸にします。(針糸と下ルーパー糸はフィラメント糸が最適ですが、スパン糸でもできます)
3. 糸調子ダイヤルと送り調節つまみの目盛を合わせます。

糸調子ダイヤル目盛	針糸調子	1～3
	上ルーパー糸調子	1～5
	下ルーパー糸調子	4～8
送り調節つまみ		2～2.5

4. 布地を2つに折って、一定の幅で縫い進めます。
5. 縫い上がったら、2つに追った布地を開きます。



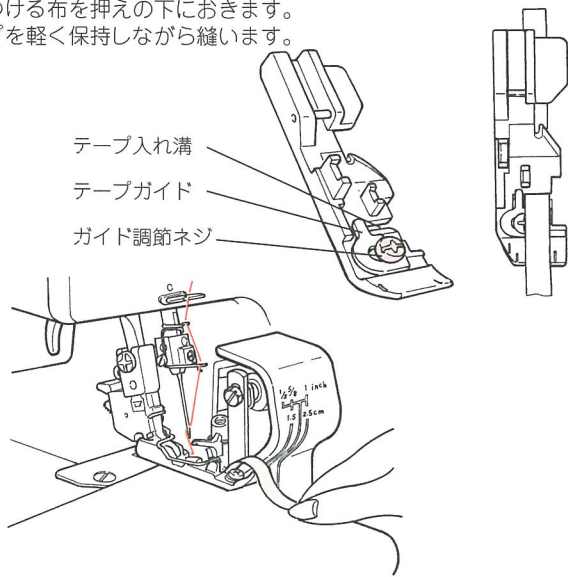
テープ付け・縫っている途中で糸が切れたとき・縫い目のほどき方

■テープ付け縁かがり縫い

このミシンの押えにはテープ付け案内がついています。ニット地などの伸縮性のある布地の肩線や脇線などに使いますと、伸び縮みしませんのでお試しください。

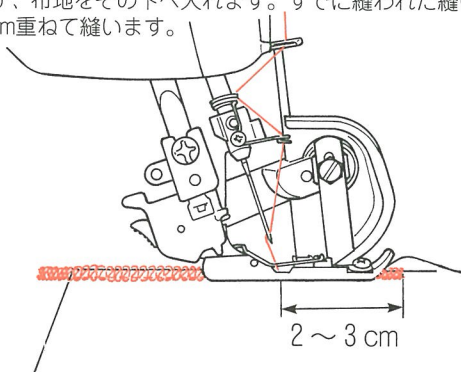


1. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
2. 上メスを解除します。
3. 押えを上げて、テープを押えのテープ入れ溝に右側から入れてから、押えを下げます。
4. 上メスを元に戻します。
5. ガイド調節ネジをゆるめてテープガイドをテープの幅に合わせて、ガイド調節ネジをしめます。
6. はずみ車を手で回してテープを2～3針縫います。
7. 縫いつける布を押えの下におきます。
8. テープを軽く保持しながら縫います。



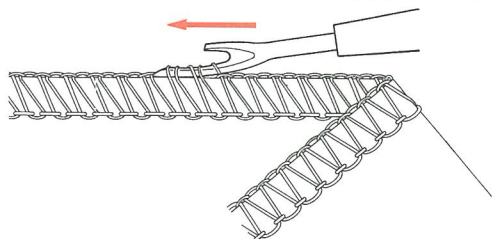
■縫っている途中で糸が切れたとき

1. すぐに縫いを中止して、布地をはずします。
2. 切れた糸をかけなおします。
 ※下ルーパー糸が切れた場合：針糸は針のところで切り、はずします。そして最初下ルーパーに、次に針に糸を通します。
 ※上ルーパー糸が切れた場合：針と下ルーパーに通った糸をはずし、上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸の順に糸を通します。
3. 押えを上げ、布地をその下へ入れます。すでに縫われた縫い目の上を2～3cm重ねて縫います。



■縫い目のほどき方

市販のリッパー（目ほどき）で布端の上ルーパー糸と下ルーパー糸を同時に切り進みますと、布地をいためず縫い目が簡単にほどけます。



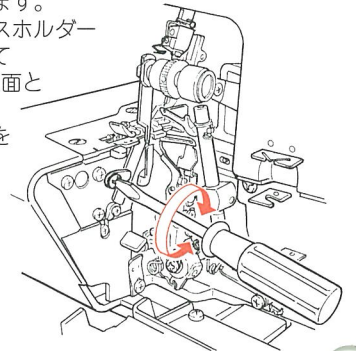
上メス、下メス交換・ランプの交換掃除と注油

■上メスの交換

上メスは特殊超硬材を使用していますので、普通は交換する必要はありませんが、刃先がかけたとき交換します。そのときは、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

- 下メスの交換** **⚠️注意** メス交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

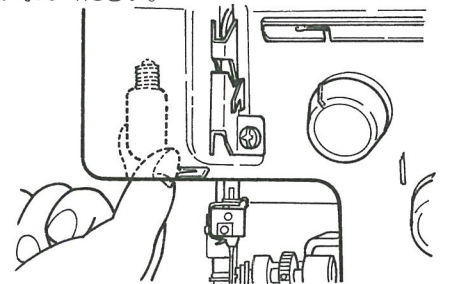
1. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
2. 上メスを解除します。
3. ドライバーで下メス押え板止めネジをゆるめ、下メスをとりはずします。
4. 新しい下メス（別売）を下メスホルダーの溝に入れ、上下調節器にあてます。（下メスの刃先が針板上面と同じ高さになります）
5. 最後に下メス押え板止めネジを強くしめて、固定します。



■ランプの交換

- ⚠️注意** ●ランプは冷えてから交換してください。
 ●ランプ交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

ランプをはずし、新しいランプをとりつけます。
 ランプ消費電力は100V/15Wです。
 お買い上げ販売店でお買い求めください。



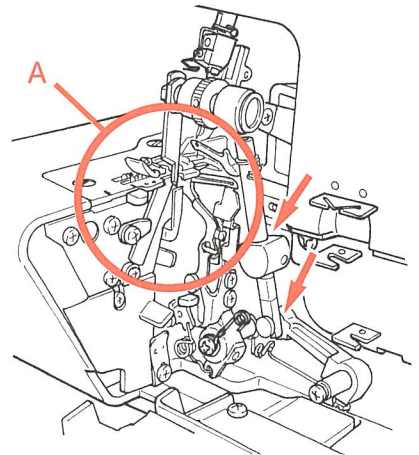
■掃除と注油

- ⚠️注意** 掃除、注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。

ミシンをご使用になりますと、綿ぼこりがたまりやすいため定期的にとり除きます。
 針板と下メスのまわりには、綿ぼこりがたまりやすいので、定期的に取り除いてください。(A)
 このミシンには重要な部分に特殊材料を使用していますが、図示したところへミシン油を1～2滴注油してください。

注意：

- ・炎症、かぶれを防ぐため目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
- ・下痢、嘔吐を防ぐため誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- ・子供の手の届かないところに置いてください。
- ・油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

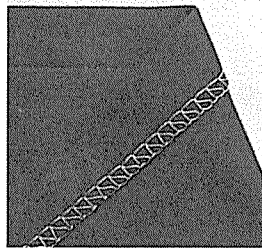
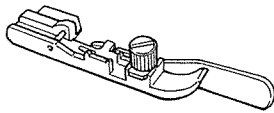


別売付属品・仕様表

■別売付属品

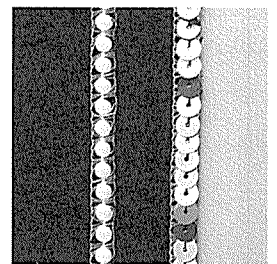
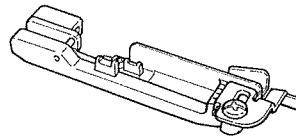
●ブラインドステッチ押え

スカート、ズボンの裾、Tシャツの袖口、裾の処理に！



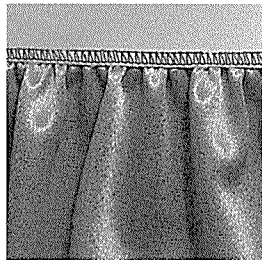
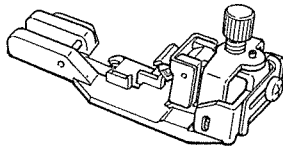
●パール付け押え

ドレスやブラウスのかがり付けに！



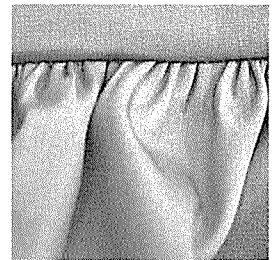
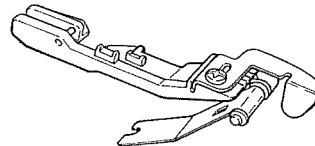
●ゴムテープ付け押え

水着、レオタード、衣服のゴム入れに！



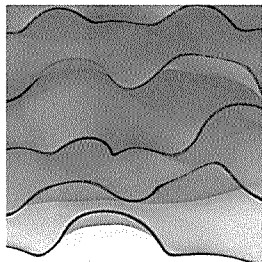
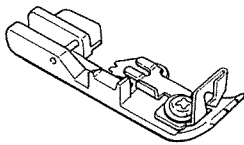
●ギャザリング押え

スカートやブラウスの肩のギャザリングに！



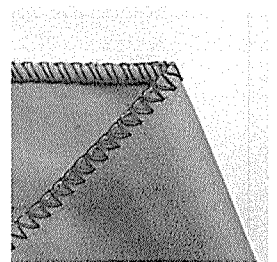
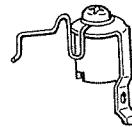
●コーディング押え

ドレスの裾、ブラウスの衿、形くずれ防止に！



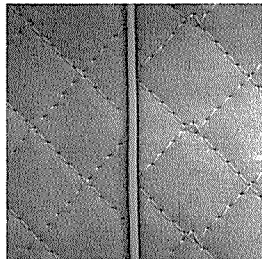
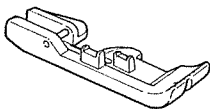
●2本糸切替えアタッチメント

一枚布地の縁かがりと飾り縫いに！



●パイピング押え

トレーナーのアクセントやバックのコーナーに！



別売品のお求めは、お買い上げ販売店にご相談ください。

■仕様表

項目	仕様
使用系数	3本
使用針	HA×1 11番又は14番
かがり幅	4mm (巻き縫い2mm)
縫い目の長さ (送り量)	1~4mm (標準送り量2.5)
差動送り比	0.7~N~2.0
押え上げ量	5mm+2段上げ
縫い速度	最大1,500針/分
ミシンの大きさ	幅270×奥行260×高さ295mm
重量	6.8kg

■サービスをお申し付けになる前に

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申し付けになる前に、もう一度お確かめください。

現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎる時。	・押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	5
針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 ②針のとりつけ方が悪い時。 ③布地を無理にひっぱった時。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	5 5 —
糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっている時。 ②糸調子が強すぎる時。 ③針のとりつけ方が悪い時。	・正しくかけなおします。 ・糸調子を弱くします。 ・正しくとりつけます。	6・7 8 5
目とびがする場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 ②針のとりつけ方が不完全な時。 ③糸のかけ方がまちがっている時。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・正しくかけなおします。	5 5 6・7
縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全な時。 ②糸調子皿に糸が入っていない時。	・正しい糸調子になおします。 ・正しく糸をかけなおします。	8 6・7
縫いシワがよる場合	①針糸調子が強すぎる時。 ②糸のかけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいる時。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・針糸調子ダイヤルの目盛を小さい方へ合わせます。 ・正しくかけなおします。 ・目盛を正しく合わせます。	8 6・7 10
縫った後の布端がカールする場合	①針糸調子が強すぎる時。	・糸調子を弱くします。	8
モーターの故障	①雑音がする。 ②モーターが全然回らない。 ③火花が異常に大きい。	・カーボンブラシを交換します。 (注)カーボンブラシの交換はお買い上げの販売店に依頼してください。	—

上記の方法でも直らないときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
 - 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
 - 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
 - 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
 - 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
- 当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お近くの営業所をご紹介させていただきます。

東京営業所/名古屋営業所/大阪営業所
広島営業所/九州営業所

JUKI株式会社

〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-3480-7112